

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102275		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「八巻家」一丁目		
所在地	福島県福島市上鳥渡字向山25-8		
自己評価作成日	令和22月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、法人の理念のもと、地域の行事や文化祭に利用者と職員が一緒に作った作品を出品するなど交流し、地域の一員として暮らしているよう取り組んでいる。 管理者と職員は、利用者・家族と普段からコミュニケーションを図り、一人ひとりがその人らしく持っている力を維持できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である「つどい10の約束」を見えるところに掲示し、実践できるように心掛けている。	法人の理念をもとに、地域とのかかわりを増やしたい、との目標をもって、事業所として取り組んでいる。毎年開催される地域の文化祭に参加し、展示スペースを設けてもらい、事業所を知ってもらうようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に、施設に来て頂いたり、地区の文化祭の時に利用者様の作品を出展している。	町内会に加入し、回覧板で清掃活動を知り、積極的に参加している。近くの幼稚園児がお遊戯を披露してくれたり、クリスマス会では園児と利用者が互いに手作りの作品をプレゼント交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を開放し、ご家族様や地域の方の相談をいつでも受けれる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しご家族様の意見を今後のサービスに活かすよう努めている。	事業所の行事や課題、利用者や入居待機者の状況を報告し、意見をもらっている。事業所として、感染症について勉強会を行うことを伝えている。今後は、市のグループホーム担当者へ出席を呼びかけたらとの意見があり、参加を依頼しようと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課の担当者や生活福祉課の担当者の方と電話などで連絡を取り合い、月に何度かは市役所に訪問するように取り組んでいる。	利用者の状況を知らせ、その人に合った対応を相談するなど、協力関係を築いている。地産事業者の商品を知らせてもらい、その中から選択し提供してもらっている。感染症対策について、ファクスで情報をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアにて、勉強会を実地し今後のケアに活かせるよう努めている。	拘束をしないことを基本にしている。職員が講師になって、どんな事が拘束になるかを悩みながら試行錯誤しながら勉強会を開催している。言葉の拘束については、気づいた時にはその場で話をし、理解してもらい拘束しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアごとに勉強会を実地し今後のケアに活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を利用されていた方がいるので、基本的には把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、電話での問い合わせ、契約時などに利用料金や概要などを説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望を伺い、ケアプランに反映させている。	利用者の日ごとの生活状況を話し、意見や要望をもらい本人・家族と日頃からコミュニケーションをとることで信頼関係がもてるようにしている。立ち上がり不安な人の状況が変化したときの対応を話し、理解をしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、フロアミーティングを行い、お互いの意見を聞く機会を設けている。	職員の意見や要望を、話し合い取り組んで結果を報告してもらうようにしている。レクリエーション委員会から、家族を読んで行事を行いたいとの提案があり検討している。職員が、研修や資格取得を希望するときは、勤務体制を考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を定期的におお、各スタッフに記入してもらい、現状の把握につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会、外部への研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、WEB会議を行い、他の施設の管理者と意見を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、本人の要望を聞き、ケアプランの作成に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様の要望を聞き、利用者様の生活に反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にご家族様の要望を活かせるようケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ること、出来ないことを理解し出来ることは、積極的に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と協力し、利用者様に必要な物を揃えたり、または、受診対応を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車でのドライブ、ご家族様との外泊でご利用者様の行きたい場所へ行けるよう努めている。	友人・知人や家族が面会に来てくれている。入居前の実態調査で、その人の生活歴やこれまでの人間関係を把握し、継続できるようにしている。近くの理髪店が事業所に来てくれているが、本人の希望で行きたいときは出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様とのレクリエーションを通して、ご利用者様が一人でのいる場面を少なくするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話などで相談があれば、サポート出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフと利用者様が一對一で過ごせる時間を持ち、本人の生活する上での悩みがないか把握に努めている。	家族との話のなかで、これまで把握できなかったその人の仕事の内容を知り、そのことを話題にしながら思いの意向を把握するようにしている。夜間、眠れない方がフロアで昔の話をしてくれるなど、その人の思いがけない一面を知ることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様面会時にご自宅ではどのような生活していたのかを聞いて、グループホームでも自宅のように過ごしてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を生活記録にまとめて、本人が何が出来て、何が出来ないのか、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを実施し、各スタッフと意見交換をして、御家族様やご利用者様の要望に添った、ケアプランを作成している。	利用者の状況を把握し、その人に合った個別の具体的な介護計画を作成している。一人ひとりの利用者を、全職員の目線で話し合い、偏らないようにし計画に反映させている。身体状況に応じて、医師の助言を受け、計画を見直し、家族に知らせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送りノートなどで、フロアやご利用者の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の要望ごとに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設などと連携しながら、ご利用者様が花見などの季節に応じたレクリエーションを楽しめる環境を整えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の前にかかりつけ医になっている所はないかを確認し施設の往診か、どちらかを選択して頂いている。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の希望により、協力医療機関に変更する方もいる。専門科目の受診は、職員が同行している。受信結果は、家族に伝え情報の共有をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はの報告をこまめに行い、ご利用者様の体調におうじて、対応して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、3回に1回はお見舞いに行き、病院の看護師などに聞いた情報を書面で残し、情報を共有している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、かかりつけの医師、施設の看護師に状態を報告し、方針を共有し取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所として出来ることを話している。管理者は看取りの時に、職員に負担をかけないよう、一緒にケアするようにしている。協力医療機関が来年度から変更になるため、今後の対応を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに添っての対応、または管理者への報告にて、指示を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに添って、いつでも対応できるよう準備している。	消防署の協力を経て訓練の後、訓練直前まで想定内容を知らせないで行ってはどうかの提案をもらい検討している。職員は、避難方法や避難経路を理解し、安全に誘導できるようにしている。年間を通して、全職員が訓練に参加できるよう勤務を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様はの声掛けはもちろん、居室へ入る時もノックして声掛けを心がけている。	尊重している思いを伝えるために、言葉かけの声の高さや抑揚に気を付け、相手の目線に合わせて話しかけたりすることを大切にしている。利用者同士で思い違いのあった時やプライバシーを損ねるときは、職員が間に入り話題を変えるなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の時など、ご利用者様に必要な物はないかを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの食事、レクリエーションの時、声掛けはするが、参加するかはご利用者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を利用されている方は、買い物と一緒に行き、ご自分で選んで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にできる範囲で、お盆拭き、食器洗いなどをおこなってもらっている。	一人ひとりの食べる力に合わせて、調理をしている。食欲を高めるため、盛り付けを工夫している。誕生日にはケーキや、家族の方からいただいた食材を調理している。回転すしに行ったり、近くのスーパーのフードコートで好きなものを食べてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせりが多い、ご利用者様には、主食をおかゆ、副食は刻み、水分にトロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し口腔内の状態もチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前、食後にトイレのう促しをを行う時間をもうけている。	トイレで排泄することが、寝たきりにならないことと考え、自立に向けてトイレで排泄できるよう支援している。退院時、オムツだった方が職員の根気強いトイレ誘導で、リハビリパンツにかわれたかたがいる。失敗した時は、手早く周囲に気づかれないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分もこまめに促し、食前にラジオ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴するか確認は行うが、入るかどうかは、本人のペースや体調にまかせている。また、入浴する時には、入浴剤なども使用している。	時間は定めず、これまでの生活習慣に合わせて無理強いないようにしている。嫌がる人には、職員を変えたり声かけを工夫し羞恥心に配慮しながら、入浴してもらうようにしている。寒い時期は、脱衣所を暖めて、体に負担がかからないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに、ご利用者様に確認をしながら、臥床していただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホワイトボードにご利用者様お一人お一人の錠数を記入し、服薬する際、日付、ご利用者様の名前をスタッフ同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のペースに合わせて、スタッフと一緒にレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好きな食べ物を頂けるよう、外食など事前にお店に連絡をいれるなど対応している。	暖かい日には、事業所周辺を散歩し、外に出る機会を多くしている。外に出ることで、季節や暑さ寒さを感じてもらい、気分転換している。レクリエーションで出かけるときは、事前に車いす対応トイレなどを下見・確認し、安全・安心に出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、施設側で預かり、ご利用者様、ご家族様の要望に応じて、預かり金の中から、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けて頂き、手紙を書く時には、スタッフがサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、作品などを一緒に作り、それらを飾りつけに使用している。	利用者と職員が一緒に作った季節を感じられる作品が飾られている。利用者の歩行の妨げにならないよう、床に物を置かないようにしている。掃除をこまめにしたり、換気・加湿や手すりを消毒する等感染症対策をしている。玄関に消毒液を備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで塗り絵を行う方には、塗り絵がやりやすいよう、色鉛筆、作品の準備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自宅で使用していた物品などは、ご家族様の協力のもと準備し、その人が落ち着いて過ごせる環境づくりを心掛けている。	居室の入り口には、氏名を大きく書いたネームプレートがあり、分かりやすいようにしている。その人の身体機能に合わせて、ベッドの位置を変えるなど過ごしやすいようにしている。衣替えは家族が行い、職員がお掃除をし整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、解かりやすいよう、名札などを準備している。		